

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	はびねすスタディ若槻			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		~	2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数)	25
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		~	2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間での情報共有が行われており、チームで支援を行う体制が整っている。日々の打ち合わせや記録を通して子どもの様子や課題を共有し、支援内容の統一を図っている。	子どもが安心して過ごせる環境づくり。視覚的な支援やルールのも明確化など、子どもが理解しやすい環境設定を行っている。	クールダウンスペースの整備。気持ちの切り替えが難しい児童が安心して落ち着ける環境づくりを検討していく。
2	子どもの特性に応じた支援を行える環境が整っている。個々の特性や発達段階を踏まえ、個別活動と集団活動を組み合わせた支援を行っている。	個々の特性に合わせた支援。個別活動と集団活動を組み合わせ、無理のない形で社会性やコミュニケーション力の向上を目指している。	研修機会の充実。発達障害理解や支援方法についての研修を行い、職員の専門性向上を図る。
3	保護者との連携を大切にしている。日々の送迎時の情報共有や連絡帳を通して、子どもの様子や成長について共有している。	職員間での振り返り。支援後の共有や記録を通して、支援内容の見直しや改善につなげている。	関係機関との連携強化。学校や相談支援専門員との情報共有をより積極的に行い、継続的な支援につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境面の課題。スペースの関係で落ち着いて過ごせる個別スペースが十分に確保できない場合がある。	施設スペースの制限。建物構造や部屋数の関係で環境調整が難しい場合がある。	環境調整の検討。パーティションの活用などにより、落ち着いて過ごせるスペースの確保を検討する。
2	支援後の振り返り時間の確保。日々の業務の中で振り返りや検討の時間が十分に取れないことがある。	業務量の多さ。送迎や記録業務などがあり、職員間の振り返り時間の確保が難しい。	職員間の情報共有の充実。短時間でも振り返りの機会を設け、支援の質向上につなげる。
3	地域交流の機会。地域の子どもの交流や地域活動への参加機会が少ない。	地域とのつながり不足。地域交流の機会を作るための情報収集や調整が十分にできていない	地域や関係機関との連携。学校や相談支援専門員との情報共有を強化し、地域とのつながりを広げていく。